



特権ID管理

AccessMatrix™ Universal Credential Manager (UCM)は、企業が直面する重要な監査／運用上の課題－通常業務または緊急時に企業の情報資産（データベースや重要なサーバ、ネットワーク機器など）へアクセスする為の特権ID・パスワードの保管・払い出しの管理－を解決します。

特権アカウント資格証明への対話型アクセス

これまで、このような機密情報は不正なアクセスや使用を防ぐため、紙に記録されたのち封筒に封印されて物理的にセーフティボックスに保管されていました。これは一般的な手法であります但以下の様な制限がありました。

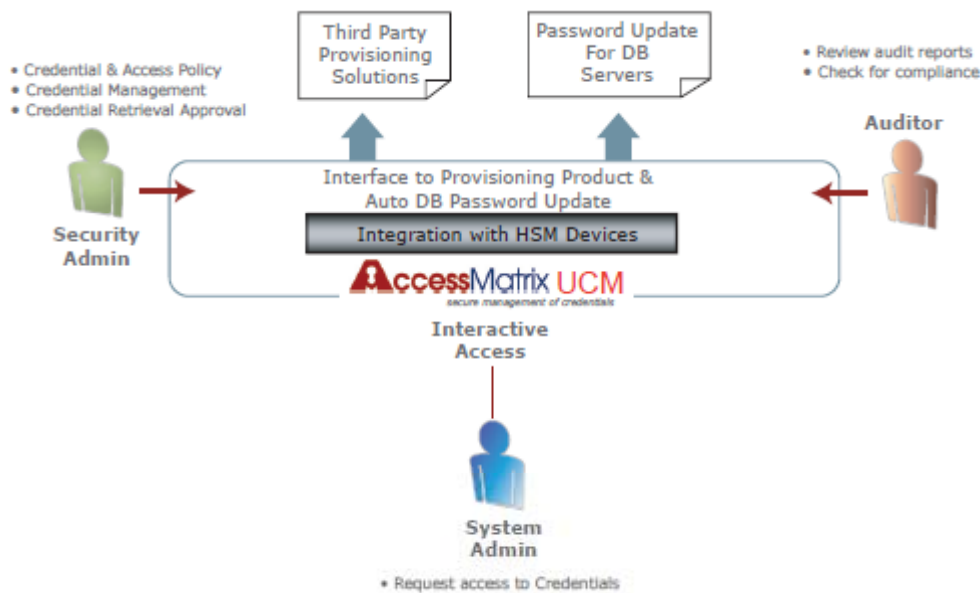
- ・権限を持つスタッフだけがパスワードにアクセスできることを保証する権限チェック機能がない
- ・パスワード変更やパスワードの払い出し／返却時の監査証跡の記録ができない
- ・パスワード払い出し後の定常化強制不可・・・当該パスワードが返却されるまで有効である保証ができない
- ・遠隔地からのリモートアクセス時の物理的制限・・・セーフティボックスが開けられない

UCMが提供するもの

AccessMatrix UCMは、安全なパスワードレポジトリとその管理基盤、および緊急・保守要求時にユーザが特権パスワードを取得できる承認ワークフローを持つ会話型アクセスを提供することにより、上記の制限を克服しました。主な機能として以下のようなものがあります。

- ・特定の資格証明へのアクセスコントロール
- ・クリティカルなアクティビティに対する監査証跡とレポート
- ・多要素認証のサポートによる強力な認証
- ・承認ワークフロー
- ・データベースやサーバなどのターゲットリソースに対する自動パスワードアップデート
- ・他社ベンダー製ワークフローソフトウェアとの統合を実現する拡張性の高いAPI

さらに強力なセキュリティオプションとして、キー管理や暗号化サービスを提供するHSM(ハードウェアセキュリティモジュール)と統合することが可能です。



AccessMatrix™ UCMの機能と利点

機能	詳細	利点
パスワード管理と暗号に対する共通セキュリティ基盤	UCMはアプリケーション毎に存在する複数のIDやパスワードを管理することのできる柔軟性を備えています。	複数のアプリケーションに対するそれぞれのID・パスワードに対する管理容易性向上。
自動パスワード変更ポリシー	UCMは定義されたパスワードポリシーに基づいてパスワード変更を実施するプロセスのプロセス自動化ファシリティを搭載しています。	パスワードポリシーの強化を実現。
ワークフロー統合	UCMは管理者が自ら機密の証明情報を取り出すことができるようビルトインのワークフローを提供します。 また、資格証明情報が使用された後、資格証明書オーナーがパスワードリセットを実施したことを追跡する機能も有しています。	UCMは迅速な導入が可能であり、複雑なワークフロー要件に対処するための他のワークフローソフトウェアとも統合可能なオープンインターフェイスを備えたソリューションとして即時利用が可能。
セキュア通信	SSL(PKIベースの相互認証)を使用することでアクセス管理システムのUCMコンポーネント内全ての接続をセキュアに保証します。	AccessMatrixコンポーネント間での全てのメッセージ交換に対するメッセージの機密性と一貫性を実現。
特許取得技術-管理や委任に対する階層モデル	UCMはコンピューティングリソースに対するユーザアクセスを確実に責任ある管理をするため、組織構造のあらゆるレベルにおいてセキュリティ管理者を指定することのできる柔軟性を備えています。	セキュリティ向上や管理コスト低減の実現が可能、きめ細やかなレベルで定義されたローカルセキュリティ管理者の管理者権限のコントロールが可能。
ポリシードリブンアプローチ	UCMはパスワード期限、認証方法、時間及びアクセス制限などの企業規模のセキュリティポリシーを自動的に実行するファシリティを備えています。	定義されたセキュリティポリシーに基づき組織を越えて一貫したセキュリティポリシーを適用することが可能。
セキュアな監査証跡とアクティビティレポート	全てのイベントを専用のオーディットサーバに記録するロギング機能を有し、監査役はユーザアドミニストレーション活動監査を目的としたあらかじめ定義されたレポートを使用することが可能です。	完全な監査追跡情報を監査人に提供することができ、ユーザアカウント管理に関する情報の集約・統合にかかる時間の低減化を実現。
キー管理と暗号処理のためのHSM	最適な暗号処理性能を有しているプロバイダと同様に、パスワードのような機密情報の暗号化に使用するマスターキーを保護する為にUCMはHSMと統合することができます。	AccessMatrixセキュリティレジストリ内に保存された機密情報の保護が可能。
メーカー/チェッカーコントロール	一人の管理者が実行する更新処理が完了する前に、他の管理者がチェック及び承認する仕組みとして、メーカー/チェッカーコントロール機能を有しています。	セキュリティ基盤の管理に関わるセンシティブなタスクの実行における説明責任を達成することと、あらゆる潜在的セキュリティ脅威を避けることが可能。
最小権限と職務分離	UCMは特権ユーザに対する最小限の特権と、職務の分離をサポートします。これによりセキュリティ管理とシステム管理間の職務権限を明確に分離させることが可能です。	セグメント及び下位のセグメントへのセキュリティ管理権限範囲を限定することができ、セキュリティ権限の重複の回避が可能。
スケーラビリティと可用性	複数マシンにまたがってAccessMatrixサーバコンポーネントのインスタンスを動作させることによりUCMは拡張性と高可用性を提供します。	最適なシステムアップタイムの実現と障害等のシステムダウンタイムを最小限にすることが可能。